

三人兄弟と鬼ばば

アメリカ

昔むかし、あるところに、たいそうまじしい三人の兄弟が住んでいました。ある日のこと、上の兄さんが、

「世の中に出で、ひと財産作つてこよう」といつて、旅に出ました。どこまでもどこまでも、長いこと歩いていつて、ようやく一軒の家にたどり着きました。そこにはばあさんがひとり住んでいました。兄さんが、

「今晚、泊めてもらえませんか」とたのむと、ばあさんは、「いいとも、お入り」といつて、泊めてくれました。

夜中に物音がしたので、兄さんはベッドから起きあがると、かべのすきまからとなりの部屋をのぞいてみました。すると、ばあさんがテーブルに向かって、たくさんのお金を数えていました。兄さんはそうつとベッドにもどり、お金のジャラジャラ鳴る音に耳をすませていました。やがておばあさんのいびきが聞こえてきたので、とび起きてとなりの部屋に行き、お金の入ったふくろをぬすんでにげだしました。

兄さんが走つていくと、教会堂の前に出ました。すると教会堂が、「わしをそうじしておくれ」といいました。兄さんは、

「いや、だめだ。そんなひまはない」と答えました。

「草をとつておくれ」といいました。兄さんは、「いや、だめだ。そんなひまはない」と答えました。

「草をとつておくれ」といいました。兄さんは、「わしをきれいにさらつておくれ」といいました。

「いや、だめだ。そんなひまはない」と答えて、どんどん走つていきました。

ばあさんが目を覚ましてみると、お金がなくなっています。きのう泊めてやつた若者もいないので、すぐにあとを追いかけました。教会堂の前を通りかかったので、ばあさんはたずねました。

「長い髪の頭をふつて

長い革のふくろを持つた

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

教会堂は答えました。

「むこうの畑の木の下で、お金を数えているよ」

ばあさんがどんどん走つていくと、畑の前を通りかかったので、たずねました。

「長い髪の頭をふつて

長い革のふくろを持つた

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を

畠は答えました。

「むこうの畠の木の下で、お金を数えているよ」

なおもどんどん走つていくと、井戸のところに出ました。

「長い髪の頭をふつて

長い革のふくろを持つた

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を

ばあさんがきくと、井戸は答えました。

「むこうの畠の木の下で、お金を数えているよ」

ばあさんが、ようやく畠にたどり着くと、兄さんは木の下でぐうぐうねむつていまし
た。ばあさんは、兄さんの首をちよん切つて、お金をもつて家に帰りました。

しばらくして、下の兄さんがいました。

「世の中に出で、ひと財産作つてこよう」

下の兄さんは、長いこと歩いていつて、ようやく一軒の家にたどり着きました。そこ
にはばあさんがひとり住んでいました。兄さんが、

「今晚、泊めてもらえませんか」とたのむと、ばあさんは、

「いいとも、お入り」といつて、泊めてくれました。

夜中に物音がしたので、兄さんはベッドから起きあがると、かべのすきまからとなり
の部屋をのぞいてみました。すると、ばあさんがテーブルにむかって、たくさんのお金
を数えていました。兄さんはそうつとベッドにもどり、お金のジャラジャラ鳴る音に耳
をすませていました。やがて、ばあさんのいびきが聞こえてきたので、とび起きてとな
りの部屋に行き、お金の入ったふくろをぬすんでにげだしました。

兄さんが走つていくと、教会堂の前に出ました。すると教会堂が、

「わしをそうじしておくれ」といました。兄さんは、

「いや、だめだ。そんなひまはない」と答えました。

どんどん走つていくと、畠に出ました。畠が、

「草をとつておくれ」といました。兄さんは、

「いや、だめだ。そんなひまはない」と答えました。

「わしをきれいにさらつておくれ」といました。兄さんは、

「いや、だめだ。そんなひまはない」と答えて、どんどん走つていきました。

ばあさんが目を覚ましてみると、お金がなくなつていてます。きのう泊めてやつた若者
もいないので、すぐにあとを追いかけました。教会堂の前を通りかかったので、ばあさ
んはたずねました。

「長い髪の頭をふって

長い革のふくろを持った

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

教会堂は答えました。

「むこうの畠の木の下で、お金を数えているよ」

ばあさんがどんどん走つていくと、畠の前を通りかかったので、たずねました。

「長い髪の頭をふって

長い革のふくろを持った

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

畠は答えました。

「むこうの畠の木の下で、お金を数えているよ」

なおもどんどん走つていくと、井戸のところに出ました。

「長い髪の頭をふって

長い革のふくろを持った

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

ばあさんがきくと、井戸は答えました。

「むこうの畠の木の下で、お金を数えているよ」

ばあさんが、ようやく畠にたどり着くと、下の兄さんは木の下でぐうぐうねむつていました。ばあさんは、下の兄さんの首をちよん切つて、お金を持って家に帰りました。

しばらくして、弟がいました。

「世の中に出で、ひと財産作つてこよう

弟は長いこと歩いていって、ようやく一軒の家にたどり着きました。そこにはばあさんがひとり住んでいました。弟が、

「今晚、泊めてもらえませんか」とたのむと、ばあさんは、「いいとも、お入り」といって、泊めてくれました。

夜中に物音がしたので、弟はベッドから起きあがると、かべのすきまからとなりの部屋をのぞいてみました。すると、ばあさんがテーブルにむかって、たくさんのお金を数えていました。弟はそうつとベッドにもどり、お金のジャラジャラ鳴る音に耳をすませていました。やがて、ばあさんのいびきが聞こえてきたので、とび起きてとなりの部屋に行き、お金の入ったふくろをぬすんでにげだしました。

弟が走つていくと、教会堂の前に出ました。すると教会堂が、

「わしをそうじしておくれ」といいました。弟は立ちどまつて、大きな教会堂の中をていねいにそうじして、また走つていきました。

どんどん走つていくと、畑に出ました。畑が、

「草をとつておくれ」といいました。弟は立ちどまつて、広い畑の草をすっかりとつてやりました。

まもなく、井戸のところに来ました。井戸が、

「わしをきれいにさらつておくれ」といいました。弟は立ちどまつて、井戸をきれいにさらつてやりました。

ばあさんが目を覚ましてみると、お金がなくなつています。きのう泊めてやつた若者もいないので、すぐにあとを追いかけました。教会堂の前を通りかかつたので、ばあさんはたずねました。

「長い髪の頭をふつて

長い革のふくろを持った

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

教会堂は返事もしないで、ばあさんに石を投げつけました。ばあさんは、にげだしました。

ばあさんがどんどん走つていくと、畑の前を通りかかつたので、たずねました。

「長い髪の頭をふつて

長い革のふくろを持った

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

畑は返事もしないで、もうもうと土煙をあげ、ばあさんに石を投げつけました。ばあさんは、にげるのがやつとでした。

どんどん走つていくと、井戸のところに出ました。

「長い髪の頭をふつて

長い革のふくろを持った

若者を見かけなかつたかい

私のあり金

そつくりぬすんだ若者を」

井戸はそれを聞くと、水がどんどん増えてあふれはじめました。しまいにばあさんはおぼれて死んでしまいました。

弟は、お金を持って家に帰り、幸せにくらしたということです。

原話・『アメリカの民話』皆河宗一／未来社
再話・村上郁